

2023年度カリキュラムマップ
(建築・建設工学専攻 博士前期課程)

◎ : DPと最も関連がある科目 (一つのみ)
● : DPと関連がある科目

NO	科目区分	科目ナンバー	授業科目の名称	配当年次	前・後期の別	単位数			知識・理解		思考・判断		関心・意欲	態度		技能・表現	
						必修	選択	自由	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8	DP9
									建築物を取り巻く社会的背景や空間特性、機能性を読み解く力を有している。(建築・デザイン)	建築、構造、設備、建設における計画、設計、施工、管理の実務に係わる幅広い知見と理解力を有している。(構造・設備・建設工学)	技術者倫理を理解し、種々の条件・制約を踏まえて、建築物の立案、設計、プレゼンテーションをすることができる。(建築・デザイン)	建築構造、建築材料、建築設備あるいは建設工学分野における問題を把握し、考究する能力を有している。(構造・設備・建設工学)	専門分野に係わるコミュニケーションを図りながら、文献調査、実験、観測、現地調査など熱意をもって進め、自らの設計、研究を深めてゆくことができる。	積極的に設計競技に参加し、あるいは学会発表を行い、自らの設計および研究の専門分野における意義と社会的な重要性を認識するとともに、設計および研究における問題に対する解決策を検討することができる。	建築、建設技術が社会に及ぼす影響、および設計者、技術者が社会的に負っている責任を理解して、専門分野における自らの課題に取り組むことができる。	計画から工事監理までのプロセスを理解し、専門家としてそれを実践するための能力を有している。(建築・デザイン)	専門知識に基づく実験、実測、解析を行い、結果の整理と解釈から正しい説明を行うことができる。(構造・設備・建設工学)
研究科目																	
1		5003	建築・建設工学総論A		前期	2			●	●			◎				
2		5004	建築・建設工学総論B		後期	2			●	◎	●				●	●	
3		6401	建築・建設工学インターンシップ		前期		4		●	●				◎	●	●	
4		6102	建築計画特論		後期	2			●		◎					●	
5		6101	建築意匠特論		前期	2			◎		●					●	
6		6103	建築史特論		後期	2			◎			●			●		
7		6104	インテリアデザイン特論		前期	2			●		●					◎	
8		6201	構造デザイン特論		前期	2					◎	●			●		●
9		6203	構造デザイン演習・実験		前期	2					●						
10		6204	鋼構造学特論		後期	2						◎					●
11		6208	鋼構造学演習・実験		後期	2					●						◎
12		6205	地震工学特論		後期	2						◎			●		
13		6207	地震工学演習・実験		後期	2							◎				●
14		6202	地盤工学特論		前期	2						●			●		
15		6209	地盤工学演習・実験		前期	2						●					◎
16		6206	防災工学特論		後期	2						◎	●				
17		6210	防災工学演習・実験		後期	2						●	●				◎
18		6301	建築設備学特論		前期	2					◎	●	●				
19		6302	建築設備学演習・実験		前期	2					●	●	●				◎
論文指導科目 (修士論文・修士設計科目)																	
20		5001	建築・建設工学研究 1		前期	2			●	●	●	●	◎				
21		5002	建築・建設工学研究 2		後期	2			●	●	●	●	◎				
22		6001	建築・建設工学研究3A(論文)		前期	2					●	◎	●	●			
23		6002	建築・建設工学研究3B(設計)		前期	2			●		●	◎	●	●			
24		6003	建築・建設工学研究4A(論文)		後期	2				●		◎		●		●	●
25		6004	建築・建設工学研究4B(設計)		後期	2			●		●	◎		●		●	●
計						8	44	0									

建築・建設工学専攻 博士前期課程 カリキュラムツリー

学年	期	知識・理解		思考・判断		関心・意欲	態度		技能・表現	
		DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8	DP9
		建築物を取り巻く社会的背景や空間特性、機能性を読み解く力を有している。(建築・デザイン)	建築、構造、設備、建設における計画、設計、施工、管理の実務に係わる幅広い知見と理解力を有している。(構造・設備・建設工学)	技術者倫理を理解し、種々の条件・制約を踏まえて、建築物の立案、設計、プレゼンテーションをすることができる。(建築・デザイン)	建築構造、建築材料、建築設備あるいは建設工学分野における問題を把握し、考究する能力を有している。(構造・設備・建設工学)	専門分野に係わるコミュニケーションを図りながら、文献調査、実験、観測、現地調査など熱意をもって進め、自らの設計、研究を深めてゆくことができる。	積極的に設計競技に参加し、あるいは学会発表を行い、自らの設計および研究の専門分野における意義と社会的な重要性を認識するとともに、設計および研究における問題に対する解決策を検討することができる。	建築、建設技術が社会に及ぼす影響、および設計者、技術者が社会的に負っている責任を理解して、専門分野における自らの課題に取り組むことができる。	計画から工事監理までのプロセスを理解し、専門家としてそれを実践するための能力を有している。(建築・デザイン)	専門知識に基づく実験、実測、解析を行い、結果の整理と解釈から正しい説明を行うことができる。(構造・設備・建設工学)
2	後					建築・建設工学研究 4A(論文) 建築・建設工学研究 4B(設計)				
	前					建築・建設工学研究 3A(論文) 建築・建設工学研究 3B(設計)				
1or2		建築意匠特論 建築史特論	構造デザイン特論 地盤工学特論 建築設備学特論	建築計画特論	構造デザイン演習・実験 鋼構造学特論 地震工学特論 防災工学特論	地震工学演習・実験		建築・建設工学インターナショナル	インテリアデザイン特論	鋼構造学演習・実験 地盤工学演習・実験 防災工学演習・実験 建築設備学演習・実験
1	後		建築・建設工学総論 B			建築・建設工学研究 2				
	前					建築・建設工学研究 1 建築・建設工学総論 A				